

中先代の乱から5年、大徳王寺城に立てこもる

北条時行の足取り 伝える史料を展示

1335年の中先代の乱で一時鎌倉を支配した北条時行が、「乱」から5年後の1340(暦応3)年、現在の伊那市の大徳王寺城に立てこもった」との史料が、茅野市神長官守矢史料館の企画展に合せて展示されている。

諏訪神社(諏訪大社)上社神職の神長である守矢貞実が同年に記した手記で、時行の挙兵に上社大祝の諏訪頼継が加勢したことを記した記録に残る。

それには、大祝(頼継)

が同年6月24日、相模次郎殿(時行)が信濃国伊那郡の大徳王寺城に立てこもったため、父祖の忠節忘れがたく協力して馳せこもった」とある。

父祖は、頼重と時継で、頼重、

茅野市神長官守矢史料館



北条時行の挙兵に上社大祝の諏訪頼継が加勢したという手記も展示されている茅野市神長官守矢史料館の企画展

かい、7月1日には大手で数回の合戦があった」と。勝敗はなかなかつかなかったが、だんだん味方が減っていく、死傷者が増えたため10月3日の夜に落城した」と記す。頼継はこの時12歳という。手記はこれに加えて、大祝が神職として死傷者と交わるということは今まで例がないとしながらも、父祖からの忠節は重要である、ともしている。

同館はこの手記を「時行の中先代後の足取りが分かる一級史料」とし、大徳王寺城の所在地は現在の伊那市長谷溝口とみている。

時継父子は中先代の乱で時行とともに挙兵。「乱」で父子は自害、時行は逃れているという。

手記はこうも続ける。「信濃国の守護、小笠原貞宗は府中(松本市)の御家人とともに26日馳せ向

企画展は「守矢文書にみる鎌倉・南北朝時代」。他に守矢家の文書16点を展示している。10月10日まで。午前9時〜午後4時30分。月曜休館。問い合わせは同館(電話0266・73・7567)へ。(今井則幸)